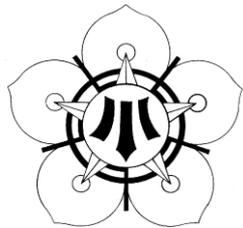


地域と家庭と学校が一つになって子どもを育む…それが“チーム七小”です！



# くさぶえ

福生市立福生第七小学校  
令和6年度 学校だより

福生第七小学校  
ホームページ  
URL



<https://fussa-7e.hs.fussa.school/>

所在地 福生市北田園一丁目1番地1

発行責任者 校長 山岸 史子

令和6年5月31日 発行



## 子どもの頃だからこそ

校長 山岸 史子

子どもの視点は、大人にはない新鮮なものがたくさんあります。自分の子どもの頃を振り返ってもそんな風には思い出せませんが、きっとそうだったのでしょ。大人にクスリと笑われて少し腹立たしく思ったことも、今思えばあの人は「微笑ましい」と感じていたのかもしれない…と思うこともあります。

子どもたちが、「ねえ、見て！」と声をかけてくれることがよくあります。皆さんもそんな場面にたくさん出会っていることでしょう。多くの場合、子どもたちは、自分が感動したことを私たちに「分けて」くれます。きれいなもの、珍しいもの、驚いたこと、嬉しいことなど様々です。掌に包み込むようにして大事そうに持ってきたものをそっと見せてくれる時は、その嬉しそうな、少し自慢げな様子さえもとてもかわいいものです。宝物を分けてもらった気がします。

また、できるようになったこと、得意なことを、目の前で披露してくれることもあります。そして、「すごいね。私にはできないなあ。」と言うと、「できなくっても大丈夫だよ。」とか、「それじゃ、先生は少ない回数でいいよ。」とハンデを付けてくれます。そんな子どもの寛容さや優しさには頭が下がります。

毎年、入学式で新一年生の子どもたちに向け、まずできるようになってほしいことの一つとして、「気持ちの良いあいさつ」を挙げてお話ししています。今年の1年生もあいさつ名人です。どんどん上手な子が増えています。おうちの方や近所の方にも励まされ褒められて、上手になっているのでしょう。笑顔と一緒に届けられる元気な「おはよう」は、周りの人をも元気にしてくれます。

大人になると失敗を恐れ（というか予測してしまうのでしょうか…）、しり込みしてしまうような事にも挑戦できる子ども時代であってほしいと思います。そしてそのためにも、無意識に、家族をはじめとした自分を取り巻く大人が絶対的な応援者であると子どもが思えることが重要だと思います。

子どもの頃だからこそできる経験や感動を、たくさん味わわせてあげたい。私たち大人はそれを支えながらも一緒に味わい、同じ気持ちを共有していけたら、幸せが増えると思います。忙しい毎日ではありますが、少し子どもの目線にまでしゃがんで、じっくり話を聞いてみてください。子どもには、温かい安心感をあげることができるでしょう。そして、私たち大人には、何か新鮮な発見があるかもしれません。